

うっしっしいー情報2015

1月市



豊岡農業改良普及センター

1月14日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が70万2千円、雌が67万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	8	1.001	706,590	17	0.867	651,621	25	669,211
篠山	7	1.045	728,074	1	0.879	669,600	8	720,765
丹波	20	0.986	716,256	13	0.829	633,129	33	683,509
朝来	7	0.977	683,023	7	0.886	677,777	14	680,400
播磨	23	0.919	677,677	12	0.836	628,560	35	660,837
美方郡	75	0.982	698,328	69	0.866	710,828	144	704,318
豊岡	24	0.960	696,285	17	0.795	638,216	41	672,208
養父	25	0.990	727,229	20	0.877	687,528	45	709,584
摂津・神戸	6	0.945	721,440	-	-	-	6	721,440
県北C	4	0.911	690,120	8	0.750	603,585	12	632,430
市場全体	199	0.974	702,499	164	0.850	675,250	363	690,188

1月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳山土井	41	0.975	716,488	29	0.859	712,502	70	714,837
2	芳悠土井	36	1.023	714,390	32	0.873	711,383	68	712,975
3	丸宮土井	39	0.940	732,074	21	0.842	666,977	60	709,290
	総計	199	0.974	702,499	164	0.850	675,250	363	690,188
4	照忠土井	10	0.930	710,640	8	0.851	641,250	18	679,800
5	福芳土井	18	1.045	676,260	14	0.900	684,334	32	679,793
6	菊毬土井	9	1.001	657,960	7	0.867	664,509	16	660,825
7	丸富土井	22	0.917	664,740	29	0.840	655,895	51	659,711
8	千代藤土井	7	0.985	711,874	10	0.827	622,620	17	659,372

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳山土井	A++ → A+	A+++	A+++ →	C	A++	A++
2	芳悠土井	A+	A	A+	A	A	A+++
3	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
4	照忠土井	B	A++	B → A	A+	A++ → A+++	A+
5	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A
6	菊毬土井	A+ → A	A+ → A	A+	B	A+ → A	B
7	丸富土井	A → B	A++	C → D	C	A	A++
8	千代藤土井	B → A	A++	D	A	A+	A+++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成26年07月現在)

今年の販売可能頭数は何頭ですか？

～繁殖・育成・出荷サイクルからわかること～

1. はじめに

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りいたします。年初にあたり唐突ですが、今年の年間販売可能頭数は何頭ですか？「今年が始まったばかりなのに、そんなん、わからんわ～」と言われそうですが、実は、昨年のお盆過ぎには今年の年間販売可能頭数は決まっていたのです。繁殖・育成・出荷のサイクルを考えると、昨年のお盆過ぎに妊娠鑑定がプラスになっていないと、今年の12月市には、適期出荷ができません。その仕組みについて説明します。

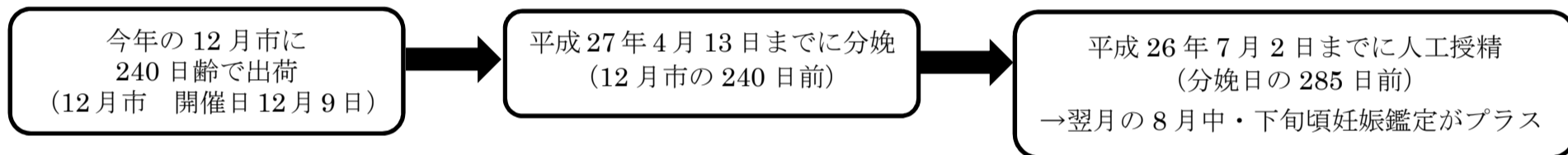
2. 繁殖・育成・出荷サイクル

まず、繁殖・育成・出荷サイクルを考えてみましょう。最終の人工授精を行った日を0日とすると、和牛の妊娠期間は約285日、さらに適正出荷日齢を240～270日とすると、妊娠期間と育成期間を合わせ、出荷までの経過日数は525日～555日（285日+240～270日）となります。月数にすると、人工授精を行った17～18ヶ月後となります（図1）。



それでは、今年の最終市である12月市に適期出荷するためには、いつまでに妊娠鑑定を行っておくべきだったか考えてみましょう。平成27年12月市の開催日は12月の第二水曜日ですから、12月9日に開催予定です。最短の育成期間を240日とすると、分娩日は240日前の4月13日となります。さらに4月13日に分娩させるためには、285日前（妊娠期間）の平成26年7月2日に人工授精を済ませ、翌月の8月中・下旬頃には妊娠鑑定のプラスにする必要があったのです（図2）。

図2 今年の12月市に適期出荷するための条件



3. 今年の販売可能頭数は？（過去分析）

次に、今回のタイトル「今年の販売可能頭数は何頭ですか？」にお答えしましょう。この頭数を計算するには、過去の繁殖成績を分析することで算出できます。平成25年7月～平成26年6月までの最終人工授精（妊娠鑑定済）頭数を下表に記入し、1～12月の頭数を合計することで、平成27年の販売可能頭数を簡易に計算できます。（算出条件は、妊娠期間285日、育成期間250日で設定しています。）また、この表から、いつぐらいに子牛販売収入が見込めるかもわかります。

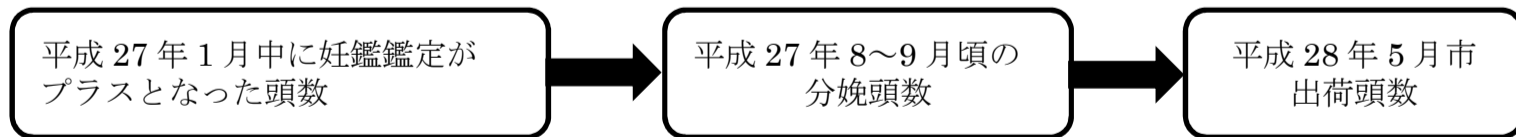
表. 平成27年の販売可能頭数（頭数を記入してみてください）

最終人工授精月	H 25.7月	H 25.8月	H 25.9月	H 25.10月	H 25.11月	H 25.12月	H 26.1月	H 26.2月	H 26.3月	H 26.4月	H 26.5月	H 26.6月	平成27年 最大出荷頭数
最終人工授精頭数 (最大出荷頭数)	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
出荷予定市(H27年)	1月市	3月市	4月市	5月市	7月市	9月市	10月市	11月市	12月市				

4. 1年4ヶ月後の家畜市場への出荷可能頭数は？（将来予測）

繁殖・育成・出荷サイクルを考えることで現在の繁殖成績から、将来の出荷頭数を予測することも可能となります。例えば今月（1月）の妊娠鑑定がプラスとなった頭数は、約1年4ヶ月後の家畜市の出荷頭数となり、平成28年5月市の出荷子牛となります（図3）。

図3 1年半後の出荷頭数予測



5. まとめ

水稻の栽培期間が育苗から収穫まで5ヶ月程度であるのと比較すれば、繁殖・育成・出荷サイクルは、人工授精から子牛出荷まで約一年半にわたる長期のサイクルです。長期であるがゆえに、困難さもありますが、1年以上先の販売計画が立てられ、ある程度の年間収入予測が可能となります。この予測を利用して牛舎整備や新たな機械導入、子牛の保留、外部導入など計画的に行ってはいかがでしょうか？

繁殖和牛農家の仕事を授精・受胎させることと考えるならば、去年以前の仕事が今年の収入、今年の仕事が来年以降の収入となります。来年以降の収入を確保するために、今年一年繁殖成績が向上できるよう発情発見や適期授精に努めて下さい。

<ポイント>

- 繁殖・育成・出荷サイクルは525～555日（17～18ヶ月）で、最終の人工授精から子牛出荷までは、1年半の長期サイクル
- 一昨年の7月から昨年の6月までの最終人工授精頭数（妊娠鑑定済）を合計すれば、その年の年間販売可能頭数が算出可能（過去分析）
- 当月の妊娠鑑定プラス頭数が1年4ヶ月後の出荷可能頭数となる（将来予測）。